

近年、いろんな分野で「量より質の時代」だと言われています。それは、右肩上がりだった成長期を終えた成熟された社会で、何が必要とされているのかの問いかけに対しての一つの答えのようです。

情報過多な社会において、体系的に効率化や合理化を進める一方で、「モノやコト」というワードをもとにした本質的なモノとコトとの関わり方を模索する動きであり、その一連の動きは、情報化社会とリンクしているような気がします。

様々な情報の取捨選択から、物事の価値観の多様化が進み、よほど自分の意思を強くもっていないと流されていく時代の中で、本当に自分が必要としている事を見極める尺度として「質」が求められているのではないのでしょうか。

こういう「質」を上げるといふ考え方は、「モノやコト」の両面からのアプローチで成立するように思えます。

例えば、最近のスーパーの野菜売り場では、産地とは別に生産者の顔写真を前面に出して販売をしたり、オーガニックとそうではないものが分けてあったり、当然それらの値段には差があるわけですが、その差は「美味しい」と「食の安全」に対する確かな裏付けが保証されていたりするわけです。

これは健康志向ブームというより、「ちゃんとしたモノが欲しい」という、大量消費社会で信用を失った「モノやコト」へのアンチテーゼのような気がします。

つまり、何について価値があるのかをモノとコトの両面からしっかりと考えて選ぶところに「質」があると思うのです。それには、人まかせにはせず自分でちゃんと選ぶという事が大切な要素であり、心が満たされ豊かさに変換される行為なのかなと思います。

質をあげる暮らし方。

zuiun便り vol.40

モノづくりにおいては、モノづくりに真摯に取り組む姿勢（コト）が見えなければ、決して「質」の高いモノにはなりません。そして、それらをちゃんと説明できるモノには、何年たっても輝き続ける本物の質の高さがあります。

モノ+コト=質

質の高いものには「モノとコト」に相関関係があると思います。

ブランドものだから質がいいというわけではありません。質がいいものを造り続けるからブランド（信用）へと成長するのだと思います。そして高価なモノの方が質が高いわけでもなく、ちゃんと「モノとコト」の相関関係が成立したものであれば、どんなものでも輝くと思うのです。そこを見極めるには、自分の価値観に照らした「質」の求め方があります。

例えば食器などの道具には、眺めても綺麗、使っても良し、使い込むほどに「味」が出るものを選ぶという具合に、機能的な部分ばかりを追求するのではなく、暮らしを形づける時間の充実も付け加える必要があると思います。そして、大事に扱う事で長持ちする。そのほうが経済的ですし、モノとの距離感がしっかり保たれていて豊かな気がします。つまり「質」が上がるのです。

働き方にも、ノー残業デーや時短勤務、フレックスタイム等、働き方の「質」をあげることによって、生産性があるという事例もあります。これも「モノやコト」の両方への働きかけで成立する「質」の上げ方です。結果として豊かな時間を過ごす事ができるのです。

質をあげるということは、豊かさに直結しているように感じます。自分にとって豊かさに結びつく「質」の基準について、今一度考えたいものです。